



Technical Regulations

車両規則書 K耐久

Tokai Series 2014

GTCP PRODUCE

www.gt-produce.com



【車両規則】

- ・本規則によって許されていない全ての変更および調整仕上げは禁止される。
- ・「ノーマルクラス」に許される改造範囲を超える場合は「クローズドクラス」に編入される。「クローズドクラス」に許される改造範囲を超える場合は、「オープンクラス」に編入される。
オープンクラスに許される改造範囲を超える改造は認められない。
- ・各クラスともナンバーの有無は問わないが、ナンバー付きの車両で自走にて来場する場合は、道路運送車両法に合致した状態で走行して来ること。
- ・NA車で「2014年 東北660選手権レギュレーション」で参加する車両は、そちらのレギュレーションに完全に合致していること(タイヤと、一部の安全規定は除く)。
「2014年 東北660選手権レギュレーション」と、当レギュレーションの、良いとこ取りをすることは出来ない。
- ・昨年からの変更点は赤色で記載してある。

1) エンジン関係

	K耐久【オープンクラス】	K耐久【クローズドクラス】	K耐久【ノーマルクラス】※NAのみ
エンジン本体	車両と同一メーカーの、 軽自動車 のエンジンであれば別車種のエンジンを搭載できる。	新車時にその車両と同一型式の車に搭載されているエンジンに限る。 (例: 同じE07Aエンジンでも、トゥデイ(JA4)に、ビート(PP1)のエンジンを搭載することは許されない)	新車時にその車両に搭載されていたエンジンから変更することは原則許されない。 ただし転倒やクラッシュなどで、同一型式車両で別仕様エンジンのホワイトボディに交換する場合の扱いについては、“ホワイトボディ”の項に従うこと。
気筒容積	2mm 以内のボアアップは許される。 ストロークアップは許されない。	変更は許されない。	←クローズドクラスに同じ
シリンダーヘッド	自由	変更は許されない。	←クローズドクラスに同じ
バルブスプリング	自由	自動車メーカーの定めた数と取り付け部を変更することなく取り付けられることを条件に、他のものと変更することができる。	変更は許されない
バルブおよびバルブシート	自由	同一型式車両に設定されている純正部品への変更は許される。	変更は許されない
カムシャフト	自由。 ただしカムシャフトの位置、個数および駆動方式は変更出来ない。 材質の変更は禁止される。	同一型式車両に設定されている純正部品への変更は許される。	変更は許されない
ヘッドガスケット	ヘッドガスケットの変更は許される	←オープンクラスに同じ	変更は許されない。
シリンダーブロック	改造は自由。	変更は許されない。	←クローズドクラスに同じ
ピストンおよびコンロッド	自由	ピストンおよびコンロッドはバランス調整のみ許されるが、それぞれ1個が未加工品であること。	変更ならびにバランス調整は許されない。
クランク	自由。ただしチタン合金の使用は許されない。	変更は許されない。	←クローズドクラスに同じ
フライホイール	自由。 ただし材質はスチールに限定される。	同一型式車両に設定されている純正部品への変更は許される。	変更は許されない。
オイルパン	変更および改造は自由。	オイルパンの外観変更は許されない。 ただしオイルの片寄り防止、および温度センサー取付けのための追加加工は許される。	←クローズドクラスに同じ

		また、エンジンへの取り付け位置および取り付け方法・作動原理を変えなければ、オイルストレーナーの位置を変更することも許される。	
オイルポンプ	変更が許される。	シムおよびスパーサーによる油圧の調整機構に限り変更が許される。	←クローズドクラスに同じ
オイルフィルター	自由。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
エンジンオイルクーラー	オイルクーラーの取り付けおよび変更は許される。元のオイルクーラーを取り外すことも許される。ただし車体外部への取付けは認められない。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
サーモスタット	自由	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
ウォーターラジエーターおよびホース	自由	- 車体側取付部の変更がなければ、容量およびラジエーターキャップ圧力の変更が許される。 - ホース類の変更は許される。	←クローズドクラスに同じ
クーリングファン／ファンシュラウド	取り外しおよび変更が許される。クーリングファンの変更に伴うファンシュラウドの最小限の変更は許される。ファンスイッチの加工、変更、追加等の改造が認められる。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
エアクリーナー	自由	エアフィルターはその車両用の純正交換タイプの物に限り交換が許され、取り付け位置の変更や取り外しは許されない。またフィルターボックスは当初のままでなければならない。フィルターボックスより前部に位置する、ボルト・バンド等で装着されたパイプ・ダクト(吸気音防止レゾネーターやブローバイガス循環ホース等)を取り外すことが出来る。ただし、取り外した後の穴は完全に塞がなくてはならない。	←クローズドクラスに同じ
キャブレターおよびインジェクションシステム(EUC含む)	自由	キャブレターをインジェクターに変更することは許されない。その逆も同様とする。 ① キャブレター - キャブレターはベンチュリーの直径あるいはスロットル開口部を変更することは出来ない。 - キャブレターの部品は、流入する空気の量に影響が無ければ、改造または交換することが許される。 ② インジェクション - インジェクションシステムは当初の形式が保持され、かつ機能していなければならない。 - インジェクション装置の部品(エンジンコントロールユニット、インジェクター、コネクタ、プレッシャーレギュレーター、エアフロメーター等を含む)は、流入する空気の量に影響がなければ、改造または変更することが許される。	変更ならびに改造は許されない。
吸気系統	自由	吸気マニホールドは国内向けの当初の部品と同一な純	変更ならびに改造は許されない。

		正部品との交換が許される。 - ただしポート内面に段付き修正を行なう場合、取付面より5mm奥行の範囲に限りシリンダーヘッド側を含み加工が許される。 - 取り付け位置について、取付穴の修正によりポート合わせを行うことも許される。 - インタークーラーホースの変更は許される。	
燃料ポンプ	自由	安全燃料タンクおよびコレクタータンクを装着した場合に限り、燃料ポンプを変更することが認められ、元のポンプを取り除くことが許される。	←クローズドクラスに同じ
安全燃料タンク	安全燃料タンクの装着が許される。 これに伴う燃料配管の変更は許される。 詳しくは安全規定を参照のこと。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
排気系統	- 排気系統は材質を含み自由。 - ただしスパ西浦モーターパークの排気音量基準(走行時最大95dB)を満たすこと。	- 排気マニホールドは当初の部品と同一な純正部品との交換が許される。 - ただしポート内面に段付き修正を行なう場合、取付面より5mm奥行の範囲に限りシリンダーヘッド側を含み加工が許される。 - 排気マニホールドは断熱措置を施すことが許されるが、確認作業のために全面を覆うことは出来ない。 - 排気マニホールド後方(ターボ付きの場合はターボの後方)の部分は、スチール又はステンレス製であれば自由とする。 - スパ西浦モーターパークの排気音量基準(走行時最大95dB)を満たすこと。	- 排気マニホールドならびに触媒は、当初の部品と同一な純正部品との交換が許される。 - 触媒以降の部分は、スチール又はステンレス製であれば自由とする。 - スパ西浦モーターパークの排気音量基準(走行時最大95dB)を満たすこと。
排気口	排気口の位置は自由とするが、車体の側面、又は後面より突き出してはならない。 ※ただし排気音量対策のためサイレンサーを追加装着した場合はこの限りではない。	- その車両が側方排気である場合を除き、後方排気でなければならない。 - 排気口の位置は車体の後面より突き出してはならない。 ※ただし排気音量対策のためサイレンサーを追加装着した場合はこの限りではない。	←クローズドクラスに同じ
ターボおよびアクチュエーター	変更、改造、およびNA車への追加装着は自由とする。	変更および改造は許されない。 NA車への追加装着は許されない。	該当なし
ブーストコントローラー	装着は許される。 ブースト圧の変更は自由。	装着は許されない。 ブースト圧は当初のままでなければならない。	該当なし
電気系統	- 点火系統は自由 - バッテリーは取付位置、ブラケット、取付ボルトの変更を含み自由。 - 室内にドライ以外のバッテリーを搭載する場合は安全規定に従うこと。	- 点火装置は装着ブラケットを含み、改造が許される。デストリビューター方式を同時点火方式(マルチコイル方式等)に変更することは許される。 - プラグの変更は自由。 - バッテリーの変更は自由。ただし取付位置の変更は許さ	- プラグの変更は自由 - バッテリーの変更は自由。ただし取付位置の変更は許されない。取付ブラケット・ボルトの変更は自由。

『2014 K耐久東海シリーズ』 車両規則 Ver. 1

		れない。取付ブラケット・ボルトの変更は自由。	
マウント方法	自由。	マウントを強化ゴムタイプに変更したり、 スグリの部分にゴムを注入する補強 は許される。	←クローズドクラスに同じ

2) シャシー関係

	【オープンクラス】	【クローズドクラス】	【ノーマルクラス】
最低重量	特に規定しない	「別表2」に記載の値とする。 この重量は出走可能な状態で全ての潤滑油、冷却水を満たし、車載消火器を搭載した上で、燃料を満タンにして、ドライバーを除く車両の重量である。 再車検で重量測定を指示された場合は、各チームで燃料を満タンにしなければならない。 「別表2」に記載のない車種でエントリーする場合は、車両重量のわかる車両カタログのコピーを、参加申込書と同時に事務局まで送ること。(個別に最低重量を決定する) 前戦で 1 位となり、ハンディウエイトを搭載して出走する車両は、車検時も再車検時も、前戦よりも車両重量が 20Kg 以上重くななければならない。(※大会規則のウエイトハンディの項目を確認すること)	「別表2」に記載の値とする。 この重量は出走可能な状態で全ての潤滑油、冷却水を満たし、車載消火器を搭載した上で、燃料を満タンにして、ドライバーを除く車両の重量である。 再車検で重量測定を指示された場合は、各チームで燃料を満タンにしなければならない。 「別表2」に記載のない車種でエントリーする場合は、車両重量のわかる車両カタログのコピーを、参加申込書と同時に事務局まで送ること。(個別に最低重量を決定する) 前戦で 1 位となり、ハンディウエイトを搭載して出走する車両は、車検時も再車検時も、前戦よりも車両重量が 20Kg 以上重くななければならない。(※大会規則のウエイトハンディの項目を確認すること)
ホワイトボディ	市販の軽自動車のボディであれば、特に規定しない	市販の軽自動車のボディであること。 ボディを交換する場合、同一車両型式のボディを使用すること。	市販の軽自動車のボディであること。 ボディの交換は原則として禁止する。ただし転倒やクラッシュなどで交換を余儀なくされた場合は、同一車両型式のボディに限り交換が許される。この場合、ホワイトボディ以外の全てのパーツは、交換を許されている物を除いて、全て元の車両の物を使用すること。 (例: 元がNAエンジンの車両を、同一車両型式のターボエンジン車のボディに箱替える場合、ホワイトボディ以外の部品は、交換を許されている物を除いて、全て元のNAエンジン車の物を使用すること)
バラスト(ウエイト)	バラストの搭載は自由。 バラストは十分な強度を有する単一構造体で、工具によって、車室または荷物室の床に目で見えるように取り付けれること。	バラストによって最低重量を満たすことが許される。 ただしバラストは十分な強度を有する単一構造体で、工具によって、車室または荷物室の床に目で見えるように取り付けられ、封印出来る構造でなければならない。 上記条件を満たせば、1 個のスペアホイールまたはリムをバラストとして使用してもよいが、当初の搭載位置に当初の取り付け方法で搭載しなければならない。	←クローズドクラスに同じ
クラッチ	自由。	取付け方法、および枚数の変更を行なわなければ、クラッ	←クローズドクラスに同じ

		チカバー、クラッチディスク、クラッチスプリングの変更は許される。	
トランスミッション、ディファレンシャル、ファイナルギヤ	自由。	ファイナルギヤの変更は自由。 その他部品については、同一型式車両に設定されている純正部品への変更は許される。(同一型式車両であれば別グレードの物(NA車にターボの物や、2WD車に4WD車の物)を流用することが許される) シフトレバーはボルトオンで装着出来るものに限り変更が許される。 リミテッドスリップデフは装着が許される。リミテッドスリップデフの装着により周辺の改造が必要な場合は最小限に抑えること。	新車時にその車両に搭載されているトランスミッション・ディファレンシャル・ファイナルギヤから変更することは許されない。(同一型式車両でも、NA車にターボの物や、2WD車に4WD車の物を流用することは全て禁止される) シフトレバーはボルトオンで装着出来るものに限り変更が許される。
オイルクーラー(ミッション、デフ)	取り付けは自由。 ただし車体外部への取り付けは認められない。	空冷式オイルクーラーおよび電動オイルポンプを取付けることができる。ただし車体外部への取り付けは認められない。	←クローズドクラスに同じ
タイヤ	一般ラジアルタイヤに限る(スリック、Sタイヤ(別表2参照)は禁止) サイズは自由。 ただしタイヤは車軸中心より前方30°、後方50°の範囲内でフェンダーからはみ出さないこと。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
ホイール	サイズ含め自由。ただしホイールは車軸中心より前方30°、後方50°の範囲内でフェンダーからはみ出さないこと。 スペーサーは使用しないことを強く推奨する。ホイールナットは自由。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
ストラットおよびショックアブソーバー	自由	車体への取り付け位置と取り付け方法、数および作動原理を変えなければ、ストラットおよびショックアブソーバーの変更は許される。	←クローズドクラスに同じ
サスペンションの要素(アーム、リンク等)	当初の形式を保つなら変更、改造は自由。 当初の形式とは「ストラット方式」、「ウィッシュボーン方式」、トレーリングアーム方式、「スウィングアクスル方式」、「リジッドアクスル方式」の5つをいう。	変更、改造、追加は一切許されない。(取付け位置を変更するようなブラケットの取付けも許されない)	←クローズドクラスに同じ
ストラットタワーバー	自由。	ボルトを利用して取り付けることが許される。 当初から装着されている車両は、ボルトを利用して取り付けるものであれば変更することが許される。	←クローズドクラスに同じ
スプリング	自由。 ただし主要な形式は変更してはならない。 補助スプリングの追加は許される。	車体への取り付け位置、取り付け方法、作動原理を変えなければ、変更は許される。 車高調整式への変更に伴う補助スプリングの追加、スプリングシートの変更、および挿入物の追加も許される。	←クローズドクラスに同じ
スタビライザー	自由。	スタビライザーは径の変更が許される。 また、連結を含みその取り外しも許される。ただし、可変式スタビライザーへの変更は認められない。 スタビライザーが当初から取付けられていない車両につい	←クローズドクラスに同じ

		ては、ボルトオンで装着ができる物に限り、取り付けが許される。 金属以外の材質に変更することが許される。 スタビライザーの径の変更に伴うブッシュ内径の変更は許される。	
ラバーマウントおよびブッシュ類	自由。	形状および寸法を変えなければ、金属への変更を除き、材質および硬度の変更が許される。 また、スグリタイプのをソリッドタイプに変更することが許される。 サスペンションアッパーマウントに限り、ピロボールの使用が許される。	←クローズドクラスに同じ
ブレーキ	自由。	ブレーキシュー、ライニングパッド、ブレーキホース、ブレーキローター、キャリパー、ブレーキドラムの交換変更は許される。ただしドラム方式のものをキャリパー方式に変更(またはその逆)することは許されない。 冷却ダクトの装着は許される。 ABSとの接続を外すこと、およびABS装置を取り外すことも許される。	←クローズドクラスに同じ
ステアリングホイールおよびステアリング	自由	ステアリングシャフトの変更または改造を行うことなく取り付けられる、ステアリングホイールとボスは自由。 クイックリリースシステムの装着も自由。 ステアリングホイールの上下位置の調整は許される。 パワーステアリングのポンプと配管の接続を外すこと、およびそれらを取り外すことは許される。	←クローズドクラスに同じ
アクスル	スピンドルを含み自由。	車両と同一メーカーの純正部品への変更は許される。	←クローズドクラスに同じ
ペダル類	安全性、操作性を向上させる目的でペダルパッドを変更することは許される。 ペダル剛性向上のため、マスターシリンダーまたはマスターバックに対してストッパーを装着することが認められる。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
ドライブシャフト	ブーツの材質を変更することが認められる。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ

3) 車体関係

	【オープンクラス】	【クローズドクラス】	【ノーマルクラス】
バンパー	バンパーは自由。 またバンパーの幅は拡幅が許されるが、フェンダーと滑らかに接続すること。	バンパーは自由。 ただし幅は全幅を超えないこと。	←クローズドクラスに同じ
ボンネット、トランク、ハッチバック	ボンネット、トランクリッド、ハッチバックは、合成樹脂、または軽金属製への交換が許される。	ボンネットに限り、合成樹脂、または軽金属製への交換が許される。ただしリヤエンジン車両は、エンジンフードも合成樹脂	←クローズドクラスに同じ

	ただしこれらの部分は十分な強度を満足し、走行中に開かないようにすること。 エンジンクーリングのため、ナカダクトおよびルーバーを設置することが出来る。	脂、または軽金属製への交換が許される。 ただしこれらの部分は十分な強度を満足し、走行中に開かないようにすること。 エンジンクーリングのため、ナカダクトおよびルーバーを設置することが出来る。	
前部空力装置	前部空力装置は自由。 前部空力装置をバンパーと一体に成形することができる。 アンダーパネルは自由。	前部空力装置は自由。 前部空力装置をバンパーと一体に成形することができる。 前車軸の中心より前方のアンダーパネルは自由。	←クローズドクラスに同じ
フェンダー	オーバーフェンダーの装着および叩き出しによる拡幅は許される。	オーバーフェンダーの装着および叩き出しによる拡幅は許されない。 フェンダーの爪折りおよびインナーフェンダーの取り外しは許される。 片側1cm厚以内のモールの取り付けは許される。	←クローズドクラスに同じ
サイドスカート	サイドスカートは車体から遊離した形状でなければ取付けることができる。	←オープンクラスと同じ	←クローズドクラスに同じ
後部空力装置	車両の全長、全高、全幅を超えなければ装着は自由。	←オープンクラスと同じ	←クローズドクラスに同じ
外部ミラー	外部の後方視界用ミラーは車両の両側に有効に取り付けられていなければならない。	←オープンクラスと同じ	←クローズドクラスに同じ
室内冷却用ダクト	ドライバーおよび車内補機類を冷却するためのダクトを設置してもよい。 これに伴う外観形状の変更は許される。	ドライバーおよび車内補機類を冷却するためのダクトを設置してもよい。 ただし外観形状の変更を伴うものは許されない。 フレキシブルダクトをピラー等に簡易的に固定することなどは、外観形状の変更とはみなされない。	←クローズドクラスに同じ
フロントガラス	フロントガラスは合わせガラスを常に備えていなければならない。 上端から10cmの幅で幻惑防止措置を施すことが許される。 ガラスの表面の保護のため無色透明なフィルムの貼り付けが許される。	←オープンクラスと同じ	←クローズドクラスに同じ
窓ガラス	ドアウインドウ、サイドウインドウ、およびリヤウインドウを無色透明な他の材質のものに変更することが許される。(厚さは問わない。) ただし取り付け位置の変更は許されない。 取り付け部をタッピング、ビス等で補強することが推奨される。 ガラスの表面の保護のため無色透明なフィルムの貼り付けが許される。	変更は許されない。 サイドウインドウに対し、無色透明なフィルム等で飛散防止対策を施すことを推奨する。	←クローズドクラスに同じ
ドア	・ドアは合成樹脂製への交換が許されるが、交換した場合はロールケージのドアバーの装着が義務付けられる。	・ドアの変更は許されない。 ・防音材を取り外すことは許される。ただし取り外すことにより、ドアの形状に変更をもたらすものであってはならない。	←クローズドクラスに同じ

	・サイドドアビームを取り外すことは許されるが、外した場合はロールケージのドアバーの装着が義務付けられる。 ・防音材を取り外すことは許される。ただし取り外すことにより、ドアの形状に変更をもたらすものであってはならない。 ・ウェザーストリップ等の保護材を取り除くことは許されない。 ・ドア内部に衝撃吸収のための難燃性の衝撃吸収材を充填することが許される。 ・電気式巻上げ装置を手動式巻上げ装置に取り替えることが許され、取り付けのための最小限の改造は認められる。 ・ドアの内装(トリム)は取り外すことは許されないが、ドアバーの装着に伴う内装の切除は認められる。	・ウェザーストリップ等の保護材を取り除くことは許されない。また、ボルトオンであってもサイドドアビームは取り外してはならない。 ・ドア内部に衝撃吸収のための難燃性の衝撃吸収材を充填することが許される。 ・電気式巻上げ装置を手動式巻上げ装置に取り替えることが許され、取り付けのための最小限の改造は認められる。 ・ドアの内装(トリム)は取り外すことは許されないが、ドアバーの装着に伴う内装の切除は認められる。	
シート	ドライビングポジションを改善する目的で運転席を交換してもよい。 座席を交換する場合、シートレールの強度は当初のものと同様以上でなければならず、車体側の取り付け部の変更は許されない。 運転席以外のシートは取り外すことが認められる。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
ダッシュボード	変更および交換は許されるが、取り外しは許されない。	当初のものを使用しなければならない。 ダッシュボードにボルトオンの付属品(オーディオ、トリム、グローブボックス等)の取り外しは許される。 ロールバー等の部品取付けのために切除加工することは許されるが、それ以外の目的での切除加工は許されない。	←クローズドクラスに同じ
内装	運転席、助手席のドアの内張り、および車体のドア開口部のプロテクターを除き、内張りを取り外すことは許される。 ただしナンバー付き車両は乗車定員が座るシート横の内張りがあること。 ロールケージの取り付けに伴う内装の切除は認められるが、最小限にとどめること。 フロアカーペットは取り外すことを推奨する。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
エアコン、ヒーター	取り外しは自由。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
ライト	前照灯、尾灯、制動灯、方向指示器は正常に作動しなければならない。 ガラス製のライト類は無色透明のガラス飛散防止策を必ず実施すること。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ
追加メーター、ラップチェッカー、データロガー	装着は自由。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ

『2014 K耐久東海シリーズ』車両規則 **Ver. 1**

補強バー類	溶接での装着を含め自由。	ボルトオンでの装着に限り自由。	←クローズドクラスに同じ
障害者用操作装置	障害者用操作装置を装着することができる。 ただし装着車両のゼッケンは、大会規則のゼッケンの項目に記載されているものを使用すること。	←オープンクラスに同じ	←クローズドクラスに同じ

■別表1 (Sタイヤと見なされる(使用禁止の)タイヤ)

NA車で「東北660選手権レギュレーション」を適用して参加する車両も、タイヤは当シリーズのレギュレーションに従うこと。

つまり、東北660選手権3クラスに相当する車両でも、ハイグリップラジアルタイヤ(例:POTENZA RE-11や、NEOVA AD08等)を使用することが出来る。

また、東北660選手権1、2、4クラスに相当する車両でも、ATR K SPORTは使用禁止となる。

メーカー	銘 柄
ブリヂストン(POTENZA)	RE520S、RE540S、RE55S、RE11S RE-11A 2.0
ヨコハマゴム(ADVAN)	A021、A032、A038、A039、A048、A049、A050
ダンロップ(FORMULA-R、DIREZZA)	D93J、D98J、D01J、02G、03G、RSV98
トーヨータイヤ(PROXES)	FM9R、08R、R881、R888、R1R

メーカー	銘 柄
GOOD YEAR	Sタイヤ該当無し
クムホ	V710
ハンコック	Z221
フェデラル	Sタイヤ該当無し
ATR	K SPORT

※上記タイヤ以外でも主催者が判断した場合は使用禁止となる。

※新発売のタイヤで判断が付かない場合は、必ず主催者まで問合せること。

■別表2 車種ごとの最低重量一覧表(ガソリン満タン時)

※下記に無い車種でエントリーする場合は、車両重量のわかる車両カタログのコピーを、申込書と同時に事務局まで送ること。

※基本的な最低重量の算出方法…その車両型式の、そのエンジンを搭載したカタログモデルの中で、一番軽いグレードの車両重量を基準値として、ノーマルクラスは「基準値+20Kg」(←ガソリン込みのため一律+20Kg)、クローズドクラスは「基準値-30Kg」とする(ビートは特例)。

NA車で「東北660選手権レギュレーション」に合致した車両で参加する場合は、最低重量は規定しない。(=重量は自由)

下表よりも軽いグレードが存在する場合は、事務局までカタログコピー等を送り最低重量の変更申請をすること。

※前戦で1位となり、ハンディウエイトを搭載して出走する車両は、車検時も再車検時も、前戦よりも車両重量が20Kg以上重くなければならない。“最低重量よりも20Kg以上”ではなく、“前戦よりも20Kg以上”であるので十分注意すること。(大会規則のウエイトハンディの項目を確認すること)

車 名	型式	クローズド クラスの 最低重量	ノーマル クラスの 最低重量	備 考
トゥデイ	JA2	590Kg	640Kg	
トゥデイ(MTREC車)	JA4	650Kg	700Kg	
トゥデイ(MTREC車以外)	JA4	620Kg	670Kg	
ビート	PP1	700Kg	750Kg	‘13年より30Kg軽い
アルトワークス	CN21S	600Kg	650Kg	DOHC、SOHC とも
アルトワークス	HA21S	620Kg	670Kg	DOHC、SOHC とも
アルトワークス	HA22S	640kg	690Kg	
セルボモード	CN21S	620Kg	670Kg	
セルボモード	CN22S	620Kg	670Kg	
セルボモード	CN31S	640Kg	690Kg	
アルトバン	HA23V	600Kg	650Kg	
アルトバン	HA12V	600Kg	650Kg	
アルト	HA22S	600Kg	650Kg	

車 名	型式	クローズド クラスの 最低重量	ノーマル クラスの 最低重量	備 考
カプチーノ	EA11R	670Kg	720Kg	
カプチーノ	EA21R	660Kg	710Kg	
ミラ	L200S	650Kg	700Kg	
ミラ	L700S	680Kg	730Kg	
エッセ	L235S	670Kg	720Kg	
コペン	L880V	800kg	850Kg	
ヴィヴィオ(DOHC SC)	KK3	680Kg	730Kg	
ヴィヴィオ(SOHC NA)	KK3	610Kg	660Kg	
プレオ	RV1	740Kg	790Kg	
ミニカ	H42V	650Kg	700Kg	